

北九州市の学力向上のために 平成19年度 全国学力・学習状況調査 観点別到達度学力検査 報告書(概要)

全国学力・学習状況調査

平均正答率について、全国との比較を行った場合、どの学年・教科もほぼ同程度であるといえるものの、いずれの学年・教科とも全国平均正答率を若干下回っている。

教科に関する調査(国語、算数・数学)

○小学校6年

	国語A	国語B	算数A	算数B
19年度本市平均正答率	80.6	59.0	80.5	60.7
19年度全国平均正答率	81.7	62.0	82.1	63.6
全国平均正答率との差	-1.1	-3.0	-1.6	-2.9

○中学校3年

	国語A	国語B	数学A	数学B
19年度本市平均正答率	80.5	69.0	69.2	57.1
19年度全国平均正答率	81.6	72.0	71.9	60.6
全国平均正答率との差	-1.1	-3.0	-2.7	-3.5

(小6)

国語・算数共に「基礎的な知識や技能」(A問題)については、全国と同程度であり、おおむね理解しているが、「活用する力」(B問題)については、全国を3ポイント程度下回っており課題である。

(中3)

国語の「基礎的な知識や技能」(A問題)については、全国と同程度であり、おおむね理解している。数学については、全国を2.7ポイント下回っており課題である。「活用する力」(B問題)については、国語・数学共に全国を3ポイント以上下回っており課題である。

<家庭での学習習慣等>

家庭学習を全くしない児童生徒は、全国を上回っている。中学校では、家庭学習の時間が二極化している。家で学校の宿題をする児童生徒の割合は、小学校は全国と同程度である。中学校は全国を下回っている。家や図書館で、普段読書を全くしない児童生徒は、全国を上回っている。

<基本的な生活習慣>

就寝時刻、起床時刻が小学校・中学校共に遅く、また朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校で全国を下回っている。

<家庭でのコミュニケーション>

家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、小学校・中学校共に全国と同程度である。

<自尊意識・規範意識等>

将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合は、小学校は全国を上回っている。中学校は全国と同程度である。

学校のきまり・規則を守っている児童生徒の割合は、小学校は全国を下回っている。中学校は全国と同程度である。

観点別到達度学力検査

平均得点率について、全国との比較を行った場合、どの学年・教科も同程度である。

小学校教科得点率 ()内は検査内容学年を示している。

	2年(1年内容)		4年(3年内容)	
	国語	算数	国語	算数
19年度市得点率	79.6	88.0	71.9	78.3
19年度全国得点率	79.5	87.9	73.2	79.3
全国得点率との差	+0.1	+0.1	-1.3	-1.0
18年度市得点率	79.1	88.0	71.1	78.5
18年度全国得点率	79.5	88.2	73.9	80.0
全国得点率との差	-0.4	-0.2	-2.8	-1.5

中学校教科得点率 ()内は検査内容学年を示している。

	1年(小学6年内容)		2年(1年内容)		
	国語	算数	国語	数学	英語
19年度市得点率	73.6	65.7	66.9	55.6	67.0
19年度全国得点率	73.7	67.4	68.5	58.3	70.5
全国得点率との差	-0.1	-1.7	-1.6	-2.7	-3.5
18年度市得点率	72.3	66.0	66.7	56.3	65.5
18年度全国得点率	74.0	68.8	67.3	58.0	67.5
全国得点率との差	-1.7	-2.8	-0.6	-1.7	-2.0

(小2・小4・中1)

小2で国語・算数ともに全国平均を0.1ポイント上回っている。また、小4、中1の国語・算数で昨年度よりすべての調査において、全国平均との差が縮まっており、改善傾向にある。

(中2)

すべての教科で全国と同程度の範囲にあるものの、いずれも昨年度に比べ、全国平均との差が拡大しており、課題である。特に、英語が全国に比べ3.5ポイント下回っている。

課題 1 正答率の分布から

小学校・中学校共に、正答率が全国平均をやや下回る層が多く、全国平均より正答率の高い層が少ない。全体の底上げとともに、「基礎的な知識や技能を活用する力」に関する指導や習熟の早い児童生徒への指導の在り方が課題である。

課題 2 領域や観点から

小学校・中学校共に、「言葉についての知識」、「読む力」、「書く力」、「図形や式・計算などの意味を考える力」、「証明問題などで、論理的に説明する力」などすべての教科の土台となる言葉の力(言語力)が十分に身に付いていないことが課題である。

課題 3 授業の在り方から

言語活動を積極的に取り入れた授業、学んだことを実生活に活用し、学習することの意義を実感させる授業などの取組が課題である。講師の招へいや授業研究を伴う校内研修が、小学校では、全国より多いが、中学校における実施が、全国より少なく課題である。

課題 4 生活習慣・学習習慣から

生活習慣に課題のある児童生徒が全国平均より多い。家庭での学習時間は、小学校・中学校共に、全国と比較して少ない。また、家庭での学習時間の二極化が見られる。

課題 5 規範意識や体験から

自尊意識に課題がある児童生徒もいる。学校のきまり(規則)を守っていると答えた児童の割合が、全国より低く、小学生の規範意識に課題がある。地域行事や地域清掃へ参加している児童生徒の割合が全国より少なく、課題である。

課題 6 学校を取り巻く状況から

教育環境の一層の充実が必要である。家庭で果たすべき役割を明確にしていく必要がある。市民総がかりで、子どもの学習や体験活動の機会の質・量両面の充実を図る必要がある。保護者の子育て支援に向けて、地域・企業等の理解が必要である。

北九州市の学力向上のための提言

~これまでの取組をさらに充実させ、長期的な展望をもって、継続的に取り組んでいくこと~

提言 1

引き続き、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に取り組むとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める必要がある。

各学校の授業改善の取組に生かす授業研究の推進
学力検査等の結果を生かした授業改善のためのPDCAサイクルの再構築
補充学習、家庭学習での問題集(学びチャレンジ学習プログラム)の活用

提言 2

すべての教科等の学習で言語活動を重視し、「言葉の力」(言語力)の向上に取り組む必要がある。

各教科で「言葉の力」を高める指導の充実
「言葉の力」を伸ばす音読暗唱活動の充実
読書活動の充実

提言 3

学力の向上に向けて小中の連携を図るとともに、特に中学校における授業研究を伴う校内研修の充実が必要である。

「学力向上のための指導のアイデア」を活用した研修の実施
小中連携した学力向上についての研修の充実

提言 4

家庭学習や生活習慣の改善に向け、まず、家庭の役割を見直す必要がある。また、市民総がかりで、子どもの学習や体験活動の機会の充実を図る必要がある。

「家庭学習のススメ」などを活用した家庭への啓発の充実
家庭や地域・企業を対象にした講演会等の実施
地域・企業等との連携による子どもの学習や体験活動の機会の充実

提言 5

「教師が子どもと向き合う時間」を確保するための条件整備を行う必要がある。

指導体制の一層の充実
教育環境の整備による教師の事務負担の軽減

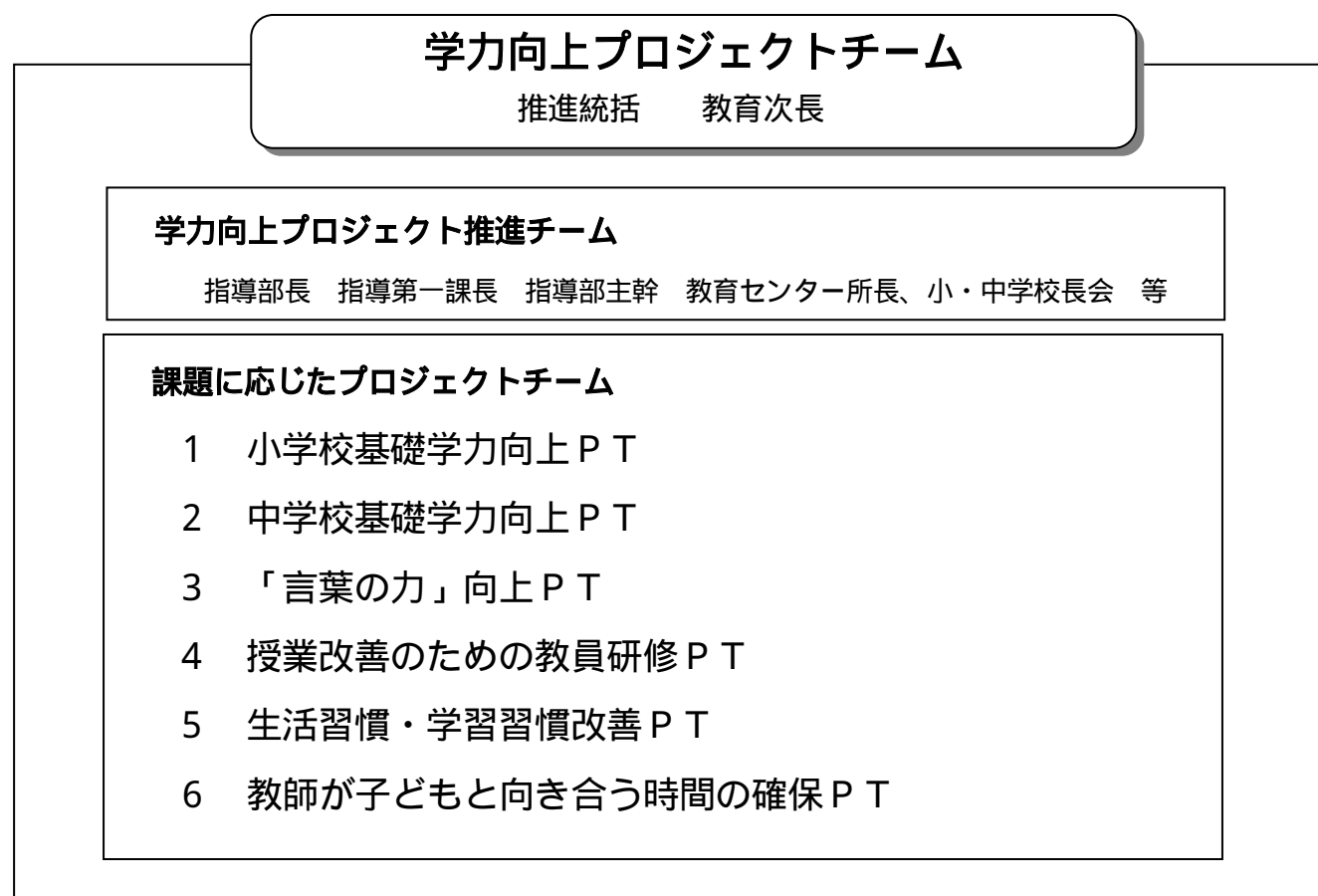
「基礎的・基本的な知識・技能」「活用する力」「言葉の力」を高める 一層の授業改善 「学力向上プラン」の再構築!

家庭の責任の明確化 家庭・地域・企業への一層のはたらきかけ!

今後の学力向上推進の取組について

北九州市教育委員会

北九州市学力向上検証改善委員会の提言を受け、学校現場の教職員や関係機関の担当者等を加えた「学力向上プロジェクトチーム」を設置し、教育現場の声を生かしながら、個別の課題に応じた、抜本的で総合的な学力向上策を策定していく。



当面の学力向上の具体策

- 1 「基礎的・基本的な知識・技能」「活用する力」を高める授業改善のモデル校による研究
(学力向上ステップアップ事業)
- 2 音読・暗唱活動の推進(全小学校1年～4年で、音読・暗唱ブックを活用推進)
- 3 「学びチャレンジ問題集」を活用した補充学習・家庭学習の充実
- 4 生活習慣や家庭学習の改善を図る「家庭学習のススメ」を活用した啓発活動の充実

検討の視点

- ・北九州市学力向上検証改善委員会の報告を踏まえ、同委員会の5つの提言以外に教育改革会議として追加する意見があるか
- ・地域全体で学校の活動を支えるという観点から、指導内容、授業の改善、教員のスキルアップなど学校において取り組まれている活動を、より効果的にするために家庭や地域が出来ることは何か。
- ・「学校、家庭、地域の連携のあり方」「家庭への働きかけ方策」など

ひまわり

日本語大好き
音読暗唱ブック



いろは歌

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゑのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

一年生向け



名句名言

- 井の中のかわず、大海を知らず
- 義を見てなさがざるは勇なきなり
- 光陰矢のごとし
- 玉琢かざれば器を成さず
- 山高きがゆえに貴からず、
樹有るをもつて貴しとなす

二年生向け



平家物語

祇園精舎の鐘の聲、

諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の花の色、

盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、

ひとへに風の前の塵に同じ。



草枕

夏目漱石

山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。

意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生まれて、画がでる。

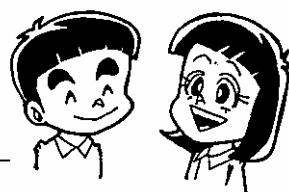
三年生向け



四年生向け



よくわかるよ! どんどんできるよ!



学びチャレンジ 学習プログラム

第 1 集

この本の活用のしかた

本書では、各教科ごとに、子どもたちのつまずきやすい内容について具体的な指導のポイントを示しています。補充的な学習等の指導に生かしてください。

補充的な学習プログラムは、課題→指導のポイント→家庭学習に向けたアドバイスの3つから成り立っています。課題の原因を明確に分析して、一人一人のつまずきに対応してください。また、家庭学習へ向けたアドバイスを基に、宿題の内容や出し方の工夫を行ってください。

朝の活動などに使えるアイデアワークシート（小学校算数のみ）は、習熟プリントづくりの参考としてください。

基礎・基本定着チェックシートは、学習の定着度の診断や子どもが進んで使える学習プリントとして使ってください。そのまま増し刷りして宿題や自学プリントとして使ってください。

この第1集は、小学校4年、5年、中学校2年の内容を中心に作成しています。

問題集例(小学校)

② 基礎・基本定着シート4

第五学年 「読むこと・文学的文章」

「おれは わらくつをこまえたことはないけども おれだつて職人だから 仕事のよしあしは分かるつもりだ。いい仕事つてのは 見かけで決まるもんじゃない。使う人の身になつて 使いやすく じょうぶで長もちするように作るのが、ほんとのいい仕事つてもんだ。おれなんか、まだわかざうたけど、今にきつて そんな仕事のできる、いい大工になりたいと思つてるんだ。」

おみつさんは、こつくりこつくりうなぎきながら、聞いていました。自分といくらも年のちがわないこの大工さんが、なんだかとてもたのもしくて、えらい人のような気がしてきました。

それから、大工さんは、いきなりしやがみこんで、おみつさんの顔を見つめながら言いました。

「なあ、おれのうちへ来てくんないか。そして、いつまでもうちに来て、おれに、わらくつを作つてくんないかな。」

おみつさんは、ほかんとして、大工さんの顔を見ました。そして、しばらくして、それが、おみつさんにおよびに来たけれど、いふことなんだと気がつくど、白いほおが夕焼けのように赤くなりました。

(「わらくつの中の神様」より)

上の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) 「ほんとのいい仕事」とは、どんな仕事のことですか。大工さんが言った言葉の中から、「仕事のこと」につながるように書き出しましょう。

仕事のこと。

(2) 大工さんと心が通い合ったしゅん間、おみつさんの様子に、どのような変化がありましたか。それがもつともよく表現されている言葉(部分)に、一線を引きましょう。

また、そのとき、おみつさんは、心の中でどんなことを考えていたのでしょうか。おみつさんになつて、大工さんへの思いをあなた自身の言葉で書きましよう。

(※五十文字以上、七十文字以内程度で)

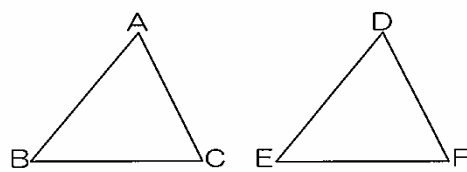
小学校国語—8

問題集例(中学校)

② 基礎・基本定着チェックシート9

三角形の合同条件を確実に身につけよう！

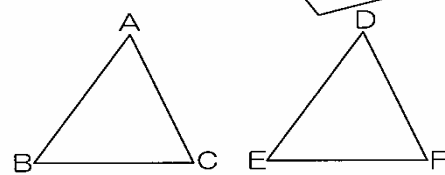
右の図で、 $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ になるように、
の中をうめなさい。また、そのとき
 の合同条件をいいなさい。



それぞれの対応する辺や
 角に印をつけてみよう。

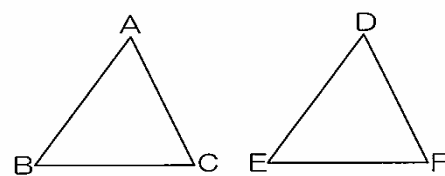
① $AB =$, $BC = EF, AC = DF$

合同条件



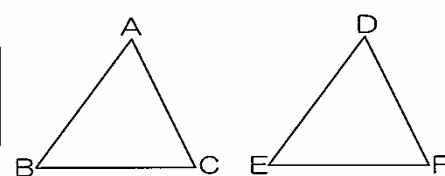
② $AC =$, $AB = DE, \angle A = \angle D$

合同条件



③ $BC =$, $\angle B = \angle E, \angle C = \angle F$

合同条件



合同条件は、確実に覚えるようにしよう。